

科目名	建築設計製図Ⅲ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅲ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	高野 繁幸・田川 裕也		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	有名建築物の模型を製作することで、建築物と外部空間のデザインを学習し、そして新たな社会のニーズに対応した増改築ケーススタディを演習する。 コンペにおける敷地の選定や、周辺環境を活かしたコンセプト創り及び設計条件の設定方法を学習する。						
授業形態	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			有名建築物の模型をグループで制作することができる。	
	○	○				周辺環境や社会の変化に対応したニーズを理解し、増改築のケーススタディを討議・発表することができる。	
	○	○				今年度コンペ課題の資料収集、敷地選定、コンセプト、設計条件を決定することができる。	
	○	○				配置、平面、断面のエスキスを検討、発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	模型制作課題の理解、グループ・模型スケールの決定					
	3・4	模型製作用図面作成				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	5・6	模型製作用図面作成、材料見積り				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	7・8	模型製作				プレゼンの準備・状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	9・10	模型製作、中間発表				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	11・12	模型製作				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	13・14	模型製作				プレゼンの準備	
	15・16	模型製作、プレゼンテーション					
	17・18	今年度コンペ課題分析、資料収集				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	19・20	コンセプト考案				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	21・22	敷地選定				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	23・24	配置エスキス検討				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	25・26	平面エスキス検討				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
	27・28	断面エスキス検討				状況に応じて、授業時間外に制作を進めること	
29・30	エスキス発表				プレゼンの準備		
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題評価		◎		◎		40%
	課題提出		◎		◎		60%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築設計製図Ⅳ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅳ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	深野木 隆		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所を主宰 建築設計(意匠)を担当		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	住宅設計に特化した設計手法学ぶ。様々な条件に応じた課題に取り組み、住宅設計に関する設計課題ができる。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		住宅設計において必要な事項について説明できる	
	○	○		○		狭小住宅の設計ができる	
	○	○		○		水路のある家の設計できる	
	○	○		○		前面道路とレベル差のある家の設計ができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	住宅計画(1)				住宅に関する資料を集める	
	3・4	住宅計画(2)				住宅に関する資料を集める	
	5・6	住宅計画(3)				住宅に関する資料を集める	
	7・8	「狭小住宅」のエスキス(1)及び木造架構と間取り(1)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	9・10	「狭小住宅」のエスキス(2)及び木造架構と間取り(2)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	11・12	「狭小住宅」のエスキス(3)及び木造架構と間取り(3)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	13・14	「狭小住宅」の講評及び木造架構と間取り(4)					
	15・16	「水路のある家」のエスキス(1)及び木造架構と間取り(5)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	17・18	「水路のある家」のエスキス(2)及び木造架構と間取り(6)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	19・20	「水路のある家」のエスキス(3)及び木造架構と間取り(7)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	21・22	「水路のある家」の講評及び木造架構と間取り(8)					
	23・24	「前面道路とレベル差のある家」のエスキス(1)				エスキスチェックに対する修正案作成	
	25・26	「前面道路とレベル差のある家」のエスキス(2)				エスキスチェックに対する修正案作成	
27・28	「前面道路とレベル差のある家」のエスキス(3)				エスキスチェックに対する修正案作成		
29・30	「前面道路とレベル差のある家」の講評及び実例の紹介						
評価方法	課題作品の提出、発表を下記の観点・割合で評価する。 ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	第1課題	○	○		○	○	30%
	第2課題	○	○		○	○	30%
第3課題	○	○		○	○	40%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築CAD設計製図演習Ⅳ						
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design Ⅳ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田邊 聡		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて BIMモデル作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	1年次に引き続き、Archi CADソフトを使った授業を行う。 修得したArchi CADの基本操作を基に、3次元の課題制作に取り組む。						
授業形態	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				3D作図の基本操作が出来る	
		○				3D作図の概念の説明が出来る	
		○	○			課題図面の3D作図が出来る	
		○				プランニングを計画通りに進めることができる	
	○				仮想施主であるパートナーの希望する建物を提案できる		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	1年次授業の復習				復習内容の確認	
	3・4	3D作図作業(1)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	5・6	3D作図作業(2)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	7・8	3D作図作業(3)				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと	
	9・10	3D作図作業(4)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	11・12	3D作図作業(5)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	13・14	3D作図作業(6)				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと	
	15・16	3D作図・プランニング(1)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	17・18	3D作図・プランニング(2)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	19・20	3D作図・プランニング(3)				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと	
	21・22	3D作図・プランニング(4)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	23・24	3D作図・プランニング(5)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。	
	25・26	3D作図・プランニング(6)				作業の進捗状況を担当教員に確認してもらうこと	
27・28	3D作図・プランニング(7)				予定作業内容が終了していない場合は、次回事業 が出来るところまで進めておくこと。		
29・30	まとめ						
評価方法	提出課題(期限・完成度)、プランニング(協調して滞りなく進めているか)により総合的に判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出課題		○	○			80%
	プランニングの進め方		○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural Planning Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河嶋 正樹		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	・劇場、集会施設、老人ホーム、体育館等を計画する上での考慮すべき事項を学ぶ。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				事務所ビルを計画する上での構成・要件・形式の説明が出来る	
	○	○				劇場を計画する上で基本的事項(客席・舞台の形式・構成要素・配置計画)の説明が出来る	
	○	○				百貨店・スーパーマーケットの基本的事項(種類・配置計画・店舗の構成)について説明出来る	
	○	○				宿泊施設を計画する上での基本的事項(部門・構成要素・動線計画)が説明出来る	
テキスト・教材 参考図書	建築計画(実教出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス6-1規模計画と経済効率				予習・復習することを心がける。	
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	4	6-2事務所ビル 各室計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。	
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。	
15	総括 I				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
宿題・レポート	○	○				20%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	構造力学Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数、断面二次半径)について学ぶ。 ・応力度について学ぶ。 ・部材の変形(梁のたわみ、柱の座屈)について学ぶ。 ・不静定構造について学ぶ。 						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				断面の性質(断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数)が計算できる。	
	○	○				各応力度が計算できる。	
	○	○				梁のたわみ、柱の座屈が計算できる。	
	○	○				不静定構造物が計算できる。	
テキスト・教材 参考図書	建築構造設計 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	断面の性質について、断面一次モーメントと図心				授業内容の復習	
	2	断面二次モーメント				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	3	断面係数、断面二次半径				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	4	応力度について、垂直応力度の算定				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	5	曲げ応力度とせん断応力度				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	6	応力度練習問題				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	7	梁のたわみ				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	8	座屈				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	9	不静定構造について				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	10	剛度、剛比について				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	11	固定モーメント法(1)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	12	固定モーメント法(2)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	13	固定モーメント法(3)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	14	多層ラーメンの応力				授業内容の復習	
15	まとめ				授業内容の復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築構造Ⅲ						
科目名(英)	Architectural structure Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	鋼構造の成り立ちと構造的特性、基礎の種類と基礎構造の特性について学ぶ						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					鋼材の機械的性質について説明できる	
	○					鋼構造の特徴を説明できる	
	○					直接基礎と杭基礎の違いを説明できる	
	○					直接基礎と杭基礎の特性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	建築構造(実教出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	構造の特徴と構造形式				授業内容の復習	
	2	鋼と鋼材				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	3	鋼材の接合(1)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	4	鋼材の接合(2)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	5	基礎				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	6	骨組(1)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	7	骨組(2)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	8	仕上げ(1)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	9	仕上げ(2)				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	10	軽量鉄骨構造と鋼管構造				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	11	鉄骨鉄筋コンクリート構造				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	12	基礎と地盤				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	13	直接基礎				授業内容の復習と次回授業範囲の予習	
	14	杭基礎				授業内容の復習	
15	まとめ				授業内容の復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
	小テスト		○				20%
	宿題・レポート		○				30%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田川 裕也		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	建築工事標準仕様書に基づき、仕上げ工事の設計・工事の実施例を参考に講義を進める						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	建築施工(実教出版)、図説 建築資料集、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コンクリートブロック・パネル工事(ALCパネル・押出成形セメント板)				授業内容の復習	
	2	防水工事(アスファルト防水・塗膜防水・シート防水等)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	3	石工事(石全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	4	タイル工事(タイル全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	5	木工事(木材・合板・集成材)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	6	木工事(床組・天井)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	7	屋根・とい工事(屋根・とい全般)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	8	金属工事(軽量鉄骨天井下地・軽量鉄骨壁下地)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	9	金属工事(金属成形板張り・金属製品)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	10	左官工事(モルタル塗り)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	11	左官工事(床コンクリートこて仕上げ)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	12	建具工事(アルミニウム製建具・鋼製建具・ステンレス製建具)				授業内容の復習と次回授業内容の予習	
	13	建具工事(木製建具・建具金物)				履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問	
	14	建具工事(シャッター・扉の形式・建具枠組)				授業内容の復習	
	15	まとめ				授業内容の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築法規Ⅱ						
科目名(英)	Building regulations Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹下 幸栄		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	2級建築士学科試験合格レベルの建築法規に関する知識を修得し、より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○					建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○					建築法規に規定する事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。	
	○					実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編、オリジナル解説プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内装制限Ⅰ(①内装制限を受ける建築物、②内装制限を受ける建築物の内装)				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	内装制限Ⅱ(①内装制限を受ける建築物の内装、②内装制限を受けるその他の部分)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	構造計算・構造強度Ⅰ(①構造計算による安全性の確認を擔するもの、②荷重および外力、③構造部材等)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	構造計算・構造強度Ⅱ(①木造軸組みの算定)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	構造計算・構造強度Ⅲ(①木造、補強コンクリートブロック造、②鉄骨造、③鉄筋コンクリート造)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	敷地等と道路(①道路の定義、法第42条第2項道路、②位置指定道路の基準、③接道条件)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	用途地域(①用途地域の種類(法第48条、法別表第2)、②用途地域の建築制限)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	建ぺい率(①建ぺい率、②2以上の地域に属する場合の建ぺい率、③建ぺい率の限度が緩和される場合)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	容積率Ⅰ(①容積率、②容積率の限度、③敷地が制限の異なる地域にわたる場合)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	容積率Ⅱ(①特定道路による幅員の緩和、②容積率対象外の床面積)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	高さ制限Ⅰ(①低層住居専用地域における建築物の高さの限度、②道路高さ制限)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	高さ制限Ⅱ(①北側高さ制限、②隣地高さ制限)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	日影規制(①日影による高さの制限、②日影による中高層の建築物の高さの制限)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	建築士法(①建築士法総則・免許等、建築士の業務、②設計受託契約等、③建築士事務所)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
15	その他関係法令(①高齢者、障害者等移動等円滑化の促進に関する法律、②住宅の品質確保の促進に関する法律)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
小テスト	○	○				20%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築設備 応用						
科目名(英)	Building Facilities Application						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田川 裕也		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 2年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				給排水衛生設備・電気設備の役割を説明できる	
	○	○				給排水衛生設備・電気設備の機器構成を列挙することができる	
	○	○				給排水衛生設備の給水・排水方式について用途の違いを説明できる	
	○	○				電気設備の相互関連性(受変電幹線設備と動力設備、自家発電と蓄電池)について説明できる	
	○	○				給排水、電気(照明)設備に関連する数値を計算式により導き出せる(水量、照度等)	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座「建築設備」市ヶ谷出版社、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	給水衛生設備とは 給水設備(水道施設、水道水水質)			授業内容の復習		
	2	給水設備(給水方式)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	3	給水設備(使用水量と給水圧力)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	4	給水設備(上水の汚染と防止・揚水ポンプ能力・管径・管材)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	5	給水設備、ガス設備			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	6	排水通気設備(排水通気設備の目的・排水の種類と方式・トラップ・配管・排水槽)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	7	排水通気設備(通気方式・間接排水・雨水排水・配管材料・口径計算)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	8	排水処理設備(目的・評価手法・種類と特徴・再利用施設)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	9	衛生器具設備(概要・種類・設置計画・ユニット)			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	10	消火設備(消火の基本・消火設備の種類・作動の仕組み)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	11	電気設備とは(役割と構成)受変電幹線設備(受電設備)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	12	受変電幹線設備(幹線設備)動力設備(概要)			授業内容の復習と次回授業内容の予習		
	13	自家発電・蓄電池(種類と概要・無停電電源装置)			履修済範囲の理解度の確認 必要に応じて担当教員への質問		
	14	照明コンセント設備(照明器具・コンセント)			授業内容の復習		
	15	まとめ			授業内容の復習		
評価方法	定期試験、レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験・レポート	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						